

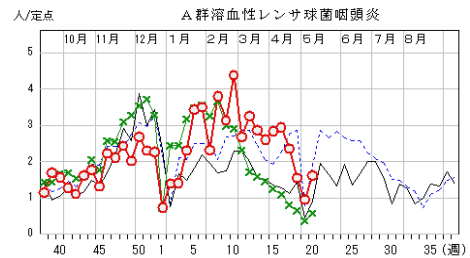
長崎県感染症発生動向調査速報（週報）

2020年第20週 2020年5月11日（月）～2020年5月17日（日） 2020年5月21日作成

☆定点報告疾患（定点当たり報告数の上位3疾患）の発生状況

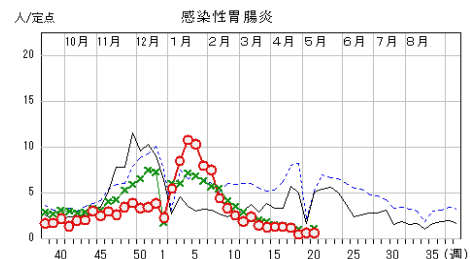
（1）A群溶血性レンサ球菌咽頭炎

第20週の報告数は71人で、前週より29人多く、定点当たりの報告数は1.61であった。
年齢別では、3歳（19人）、2歳（10人）、4歳（8人）の順に多かった。
定点当たり報告数の多い保健所は、県央保健所（6.50）、対馬保健所（2.50）、県北保健所（2.00）であった。



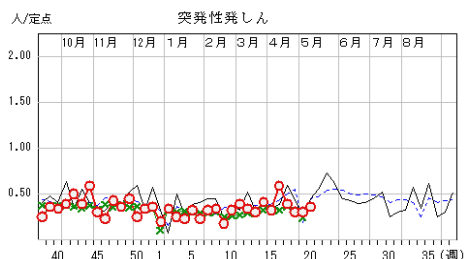
（2）感染性胃腸炎

第20週の報告数は27人で、前週と変わらず、定点当たりの報告数は0.61であった。
年齢別では、1歳（5人）、2歳（3人）、5歳（3人）の順に多かった。
定点当たり報告数の多い保健所は、県北保健所（2.67）、佐世保市保健所（0.83）、県央保健所（0.83）であった。



（3）突発性発しん

第20週の報告数は16人で、前週より3人多く、定点当たりの報告数は0.36であった。
年齢別では、1歳（11人）、1歳未満（3人）、2歳（1人）の順に多かった。
定点当たり報告数の多い保健所は、佐世保市保健所（0.67）、県南保健所（0.60）であった。



○ 当年(長崎県) — 前年(長崎県)
× 当年(全国) - - 前年(全国)

☆上位3疾患の概要

【A群溶血性レンサ球菌咽頭炎】

第20週の報告数は、前週より29人増加して71人となり、定点当たりの報告数は1.61でした。地区別にみると、県央地区（6.50）、対馬保健所（2.50）、県北保健所（2.00）は、他の地区より多くなっています。ほとんどの地区で前週より増加していますので、今後の動向に注意しましょう。

本疾患の好発年齢は5歳から15歳で、鼻汁、唾液中のA群溶血性レンサ球菌を含む飛沫などによってヒトからヒトへ感染します。また、食品を介しての経口感染もあります。潜伏期間は約1日から4日で、突然の発熱（高熱）、咽頭痛、全身倦怠感、時に皮疹もあります。急性期患者の感染力は強いですが、適切な抗菌薬の投与により、多くは1日から2日後には症状も消失し、感染力も著しく低下します。不十分な治療は無症状保菌者を生じやすいため、早めに医療機関を受診するとともに、手洗いやうがいを励行し、感染防止に努めましょう。

【感染性胃腸炎】

第20週の報告数は、前週と変わらず27人で、定点当たりの報告数は0.61でした。地区別にみると、壱岐地区、対馬地区、五島地区以外から報告があがっていますが、県全体で減少傾向にあります。

本疾患は、細菌又はウイルスなどの病原微生物による嘔吐、下痢を主症状とする感染症です。原因はノロウイルスをはじめとするカリシウイルスやロタウイルス、エンテロウイルス、アデノウイルスなどのウイルス感染による場合が主流ですが、腸管出血性大腸菌などの細菌が原因となる場合もあります。原因微生物のうち、ロタウイルスについてはすでにワクチンが認可されていますので、予防することが出来るウイルスです。特に乳幼児には、手洗いの励行とともに、体調管理に注意して感染防止に努め、早めに医療機関を受診させましょう。

【突発性発疹】

第20週の報告数は、前週より3人増加して16人となり、定点当たりの報告数は0.36でした。

本疾患は、乳児期に発症するのを特徴とする熱性発疹性疾患で、原因の多くはヒトヘルペスウイルス6および7です。38度以上の発熱が3日間ほど続いた後、解熱とともに鮮紅色の斑丘疹が体幹を中心に顔面、四肢に数日間出現します。随伴症状として、下痢、眼瞼浮腫、大泉門膨隆、リンパ節腫脹などがあげられますが、多くは発熱と発疹のみで経過します。ほとんどが2歳未満に罹患し、予後良好のため、対症療法にて経過観察するのみで、特に予防が問題となることもない疾患です。

★トピックス：マダニやツツガムシの活動が活発な時期です。ご注意ください！

マダニ類やツツガムシ類は、野外の藪や草むらに生息しているダニで、食品等に発生するコナダニや衣類、寝具に発生するヒョウダニなど、家庭内に生息するダニとは全く種類が異なります。野生動物が出没する環境に多く生息しているほか、民家の裏山、裏庭、畑やあぜ道などにも生息しています。

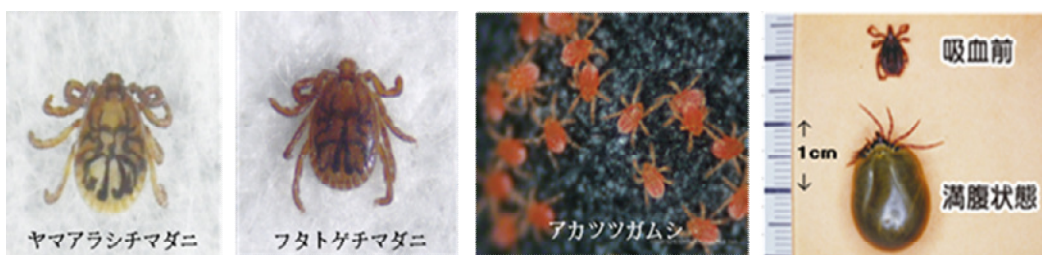
マダニ類は、日本紅斑熱や重症熱性血小板減少症候群（SFTS）などを媒介し、ツツガムシ類はその名のおりつつが虫病を媒介します。

2020年第20週までに、県内では3例の重症熱性血小板減少症候群（SFTS）の患者が発生しました。SFTSは、SFTSウイルスを保有するマダニに咬まれることで感染し、主な症状は発熱、消化器症状で重症化して死亡することもあります。ワクチンや有効な抗ウイルス薬はなく、治療としては対症療法が主体になります。

春から秋（3月から11月）にかけては、マダニ等の活動が活発になる時期ですので、野外で活動する際は、長袖、長ズボン、長靴を着用するなどして肌の露出を極力避けて感染防止に心がけましょう。もし、マダニ等に咬まれていたことに気づいた場合、無理に取り除こうとすると、マダニの口器が皮膚の中に残り化膿することがありますので、皮膚科等の医療機関で適切に処置してもらいましょう。また、咬まれた後に発熱等の症状があった場合は、速やかに医療機関を受診しましょう。受診した医療機関では、咬まれた状況などをできるだけ詳細に説明しましょう。

（参考）長崎県医療政策課 ダニ媒介性感染症「ダニ媒介性感染症の予防」
<https://www.pref.nagasaki.jp/bunrui/hukushi-hoken/kansensho/kansenshou/tick/>

（参考）国立感染症研究所 昆虫医科学部ホームページ「マダニ対策、今できること」
<http://www.niid.go.jp/niid/images/ent/PDF/170511madanitaisaku.pdf>



★トピックス：長崎県を含む39県で「新型コロナウイルス感染症緊急事態宣言」が解除されました

2020年5月20日までに、長崎県では17例の新型コロナウイルスの感染者が確認されています。また、長崎市に停泊中の外国船籍の船内で5月4日までに149名の感染者が確認されました。

2020年4月7日に出された「新型コロナウイルス感染症緊急事態宣言」について、4月16日に対象地域が全都道府県に拡大されましたが、5月14日に当県を含む39県に対する緊急事態宣言は解除されました。緊急事態宣言は解除されましたが、今後も不要不急の外出は控え、換気の悪い密閉空間、多数が集まる密集場所、間近で会話や発声をする密接場面など感染しやすい環境（3密）に行くことは避けましょう。

新型コロナウイルス感染症の感染予防には、外出後の手洗い、定期的な換気、「咳エチケット」の徹底が有効です。自己への感染を回避するとともに、他人に感染させないように徹底しましょう。

～ 咳エチケット ～

- ・人に向けて咳やくしゃみをしない
- ・マスクの着用（咳をしている人には着用を促す）
- ・マスクのない場合は、口と鼻をティッシュなどで押さえる
- ・使用したティッシュは、すぐにゴミ箱へ捨てる
- ・咳やくしゃみを受け止めた手は、すぐに洗う

(参考) 長崎県 新型コロナウイルス感染症について

https://www.pref.nagasaki.jp/bunrui/hukushi-hoken/kansensho/corona_nagasaki/

(参考) 内閣官房 新型コロナウイルス感染症緊急事態宣言

<https://corona.go.jp/>

(参考) 厚生労働省 新型コロナウイルスを防ぐには

<https://www.mhlw.go.jp/content/10900000/000599643.pdf>

(参考) 厚生労働省 3つの密を避けましょう

<https://www.mhlw.go.jp/content/10900000/000614802.pdf>

(参考) 厚生労働省 新型コロナウイルス感染症について（外部のページに移動します。）

https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/0000164708_00001.html

長崎県における新型コロナウイルス感染症発生状況

	管轄保健所	年齢・性別	類型	診断週
1	壱岐保健所	30歳代・男性	無症状病原体保有者	第11週
2	西彼保健所	20歳代・男性	患者	第13週
3	佐世保市保健所	70歳代・男性	患者	第14週
4	県央保健所	60歳代・女性	患者	第14週
5	壱岐保健所	30歳代・女性	患者	第14週
6	県央保健所	50歳代・男性	患者	第14週
7	佐世保市保健所	20歳代・男性	患者	第14週
8	佐世保市保健所	40歳代・男性	患者	第14週
9	壱岐保健所	70歳代・女性	患者	第14週
10	壱岐保健所	90歳代・女性	患者	第14週
11	壱岐保健所	60歳代・女性	患者	第14週
12	壱岐保健所	70歳代・女性	患者	第14週
13	県北保健所	70歳代・女性	患者	第15週
14	佐世保市保健所	60歳代・女性	患者	第15週
15	長崎市保健所	30歳代・男性	患者	第16週
16	佐世保市保健所	20歳代・男性	患者	第16週
17	佐世保市保健所	30歳代・男性	患者	第16週

